

1 学校教育目標

○自分で考え行動する子○みんな仲良く優しい子○のびのび元気なたくましい子

2 めざす学校像

○みんなが笑顔で活躍するふじみ野小

3 経営の基本方針

(1) 『一人一人を大切にする』

・自分はもちろんのこと、他人も大切にする子を育てる。

(2) 『一人一人の個性や可能性を伸ばす』

・子どもが主人公（子どもを真ん中に据えた教育活動）

4 経営理念

学校教育において、「不易」と「流行」という言葉が繰り返し使われてきた。「不易」とは時代を超えても変わらないものであり、社会で生きる学力を身に着けさせることや豊かな人間性を育むこと、そして、あいさつや返事、靴そろえ、もくもく清掃など「凡事徹底」もこの「不易」にあたると思う。一方、その時代の移り変わりとともに変えていくことのあるものが「流行」である。教育は社会の変化に無関心であってはならないので、ICT教育やSTEM教育、英語教育などへの対応についても更なる充実を図っていかなければならない。ずっと変わらぬ人として大切にしたい「不易」の教育、情勢状況に応じて対応する「流行」の教育どちらも大切にしたい教育活動を進めていきたい。

5 経営の重点

(1) 「不易」の教育に関わる重点

① 「凡事徹底」当たり前のことが当たり前でできる児童を育てる。

・「あいさつ・返事・靴そろえ・もくもく清掃」を重点とし、継続して指導徹底を図る。

※令和6年度は、特に「もくもく清掃」に力を入れる。⇒清掃部より提案

・教職員も「凡事徹底」①出勤簿の押印②机上の整理③来校者へのあいさつ④提出物の提出期限厳守⑤鍵の管理⑥電話を取る⑦丁寧な言葉遣い

② 「お互いに聴き合い、学び合う」授業で子ども達の可能性を引き出す。

・「学び合い」を積極的に取り入れることで、多様な人と折り合いをつけ、自らの課題を解決できるようにする。

⇒グループ学習やペア学習を1単位授業の中に1回以上組み込む ・積極的な「コの字型の机」の配置

③ 不登校傾向児童への積極的な関わりで不登校児童0（ゼロ）を目指す。

⇒教育相談主任を中心にケース会議を開催し、組織的な対応を行う。

⇒登校しぶり初期の段階での積極的な対応を行う（保護者との面談の実施や他機関との連携）

(2) 「流行」の教育に関わる重点

① 一部教科担任制を積極的に実施し、3人（2人）の担任で学年の児童全員を育てる意識を高める。

⇒3年生以上は年間を通じての交換（令和6年度時間割表に従って）

⇒1、2年生は学期に数回実施する（例：道徳1単位時間や生活1単元の交換）

② 教員のICT機器活用指導力の向上とSTEM教育の更なる充実。

⇒個人のスキルアップを図るとともに、ICT機器を授業に積極的に取り入れる。

⇒埼玉大学との共同研究の継続、校内授業研究会の開催